

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日: 令和 4年 2月 14日

公表: 令和 4年 3月 21日

事業所名 キッズサポートセンター千兵衛'sユニバ

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点・課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか(県が定める基準に則しているか)	6			愛知県の基準1人当たり3㎡を満たしています。
	2	職員の配置数は適切であるか(国が定める基準に則しているか)	6			国が定める基準を満たしています。利用者の特性を踏まえて支援者を増員して配置するようにしています。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	2	3	1	階段があるためバリアフリーにはなっていませんが、両側に手すりを設置し、子ども向けの階段の高さにするなどの配慮をしています。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	4	2		支援日報や支援者会議で、個別支援計画の目標の確認を行っています。支援者会議の見直しを行い、振り返りと再計画まで循環できるような仕組みを整えます。
	5	保護者等向け評価表を用いてアンケート調査を実施し、保護者の意向を把握し、業務改善に繋げているか	5	1		毎回アンケートを参考に、支援の見直しをさせていただいています。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	5	1		自己評価の結果はHPにて公表しています。
	7	第三者による外部評価や、第三者委員を定めて業務改善に繋げているか	5	1		苦情受付の第三者委員として外部の方にはお願いしていますが、そのような苦情は今のところなく話し合いは行われていません。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	6			年に2回、法人全体研修の機会を設け、支援力向上に努めています。事業所内でケース検討会を行い、利用者の情報を共有して支援の組み立てと振り返りを行っています。学びたいことや必要なスキルを身に着けるため外部研修にも参加するようにしています。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、個別支援計画を作成しているか	6			保護者や相談支援専門員とともにアセスメントを実施し、現状の課題を見極め個別支援計画を作成しています。3ヶ月～6ヶ月に一度保護者と面談を行っています。児童発達支援管理責任者が作成した計画・アセスメントを現場職員も理解した上で支援の実施や提案ができるよう、朝礼などで支援の確認をできるだけ、現場で職員同士声を掛け合いながら個別支援計画に沿った支援ができるようにします。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	4	2		氷山モデルや応用行動分析などのツールを活用し、個々の状況の把握に努めています。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っているか	5	1		常勤職員が組み立てたものをベースに、非常勤職員からも意見をいただきながら立案をしています。1ヶ月ごとに活動プログラムの考案を行っています。長い目で見てプログラムの組み立てができるように半期単位で考案を行うようにしていきます。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	6			個々の特性に合ったプログラムを提供しています。様々な年齢・発達段階の利用者がいるため、年齢・発達段階ごとに活動プログラムを提供できるよう考えていきます。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題や目標を設定して支援しているか	3	3		休日、長期休暇、自由時間の過ごし方について、遊べるグッズの一覧表を作り余暇時間も楽しく過ごせるような工夫をしています。
	14	個別活動と集団活動などそれぞれの目標を設定した個別支援計画を作成しているか	5	1		個別の時間・グループの活動時間を組み合わせサービスを提供しています。
	15	支援前、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	5	1		職員の出勤時間が異なるため、担当の常勤職員から非常勤職員に個々に伝達・確認をしています。その日の担当利用者、活動内容、支援で気を付けてほしいポイントなどを共有しています。事務所にコーディネート表を貼り出し、活動内容や担当が分かるようにしています。

関係機関 や保護者との 連携	16	終礼や朝礼にて、支援の振り返りや共有事項などを職員で確認し、次の支援に繋げているか	3	3	職員の出勤・退勤時間が異なるため、時間が揃う常勤職員のみ終礼で行っています。その日の支援で気になったことや支援の方向性を支援日報にまとめ、非常勤職員にも確認してもらっています。意識にズレなく統一した支援ができるように、現場でOJTしながら伝達もしていきます。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善に繋げているか	5	1	日々の様子を支援日報に記録し、個々の様子を振り返り、検証・改善に努めています。特に、継続的に気になる利用者に関しては、行動記録を別途とるようにして、支援の検証と改善を行っています。個別支援計画に沿った記録をとるようにしていきます。	
	18	定期的にモニタリングを行い、個別支援計画の見直しを行っているか	5	1	保護者と面談を定期的に行い(3か月・6か月)、個別支援計画の見直しを行っています。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか	6		ガイドラインの基本活動をベースに活動の組み立てを行っています。個別支援計画の目標に、ガイドラインの基本活動に該当する項目も記載しています。	
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者(児童発達支援管理責任者、担当者など)が参画しているか	6		児童発達支援管理責任者が会議に参加しています。	
	21	日頃から相談支援専門員、市役所福祉課、児童発達支援センター等関係機関と情報共有など連携が図れているか	3	3	相談支援専門員が担当している利用者の様子を共有したり、事業所の情報を提供したりしています。担当者から相談支援専門員に様子の引き継ぎや連絡を取るようにして、顔と名前を覚えてより連携を図れるようにします。	
	22	学校との情報共有(行事予定、下校時刻など)、連絡調整(送迎対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか	4	2	各学校の年間カレンダーを事業所で確認しています。保護者と連絡を取り合い、行事予定や下校時刻の確認等も随時行っています。学校の先生に送迎時に様子を共有したり質問したりして連携を図れるようにしていきます。	
	23	発作がある利用者に対し、発作時の様子と対応について事前に保護者と確認し、適切な対応ができるようにしているか	2	4	アセスメント時に発作がないか、ある場合はどういう状態になるか、事業所利用時に発作が起きた場合の対応などを保護者と事前に確認しています。	
	24	個別対応が必要な利用者に対して適切な支援ができるよう、スキルを身に付けているか	4	2	様々な特性を持つ利用者の対応ができるように、必要なスキルを身に付けていきます。強度行動障害研修などの受講を行い、学びを深めてスキルを身に付けます。	
	25	就学前に利用していた保育所、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	3	2	1 保護者、相談支援専門員からの聞き取り、引き継ぎから情報を得ることが多いです。児童発達支援事業所などに見学したり聞き取りをしたりして事前に情報共有するよう努めていきます。	
	26	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所(生活介護・就労継続支援事業所等)へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を共有する等しているか	5	1	高等部での実習先の事業所、卒業後に移行する事業所と情報共有するよう努めています。事前に学校、相談支援専門員、就職先、母と会議で共有を行っています。	
	27	障害のない子ども達と活動する機会があるか(例:子ども食堂、余暇支援、児童館での交流など)		2	4 公園や散歩で会う人に挨拶を積極的に行っています。日頃よく行く公園では、顔を覚えて優しくしてくれる方もいます。お互いどういう子かを知って、挨拶をしたり、助けたり助けられたりできるような関係を作っていくようにします。	
	28	子ども部会(自立支援協議会)へ積極的に参加しているか	4	2	市内の事業所が集まる事例検討・情報共有会、ペアレントトレーニング研修などに積極的に参加しています。	
	29	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	6		利用者の事業所での様子を伝達し、現在行っているサービスの内容等もその都度説明を行っています。	
	30	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して適切な支援を行っているか	1	5	保護者の悩み、求めていることなどを丁寧に汲み取っていき、適切な支援を行えるようにします。	
	保護者への	31	運営規定、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	5	1	契約時説明を行っています。活動別にかかる負担額はその都度口頭や書面にてお知らせしています。
		32	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	3	3	その都度時間を作り面談を行い、子供の成長について一緒に考え、事業所でできることや、今後の目標などの話し合いを行っています。相談支援専門員などにも共有させていただき、連携も図っています。
		33	保護者交流会等を開催し、保護者同士の連携を支援しているか	6		保護者同士の交流の場となるよう、年2回開催しています。
		34	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	6		支援の不具合や、アドバイスなどお聞きしたことを即座に解決できるよう体制を整え対応しています。

説明責任等	35	定期的におたより・会報誌を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	6			事業所のお便りを月に1回発行して情報を配信しています。
	36	個人情報に充分注意しているか	6			鍵のついた棚にて厳重に管理を行い、事業所外に持ち出さないようにしています。また、会議ではイニシャルで話し合いを行うことで個人名を特定できないよう配慮しています。
	37	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	6			利用者に伝わるよう視覚でわかりやすく伝達するなど、個々に合った手法を用い伝達するよう努力しています。
	38	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	6			感染症対策をしながら、ハロウィンパーティーや餅つきイベントを行い、近所の方を招いて活動しました。今後も、地域に開かれたイベント等を行い、交流を図っていきます。
非常時等の対応	39	緊急時対応マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知しているか	4	2		非常災害時の対応マニュアル、新型コロナウイルス感染対策マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しています。新型コロナウイルス感染対策による対応については、状況に応じた判断が多いため、都度職員や保護者に情報をお伝えするようにしています。
	40	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	6			年に2回、地震と火災に備えた訓練を行っています。ビデオ学習、避難練習、引き渡しを段階を経て行っています。
	41	虐待を防止するため、研修等適切な対応をしているか	6			法人内部研修や、県・市主催の研修を受講するなどしています。
	42	どのような場合にやむを得ず身体拘束するかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、個別支援計画に記載しているか	5	1		どのような場合にやむを得ず身体拘束するかを職員間で話し合い、対象の利用者・保護者に事前に説明し同意を得ています。
	43	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応等適切な配慮がなされているか	4	1	1	契約時に、アレルギーがないか確認するようにしています。
44	ヒヤリハット事例集を作成し、事業所内で共有し、支援の改善に努めているか	5	1		事故に繋がりがかねない些細なヒヤリハットが起きた際、いつ・どこで・誰が・どのような状況で・なぜ起きたのかを検証し、再発防止に向けて取り組むことを事業所内で共有しています。ヒヤリハット報告はクラウド上で常勤職員は確認できていますが、非常勤職員にも共有できるよう報告書を事業所内で閲覧・共有できるようにします。	